産経国際書会「本物」追い求め35年

「今作（この作品）は、ホンかニセか」――。「産経国際書会」の創設メンバー、小川瓦木氏と國井誠海氏は、展覧会で顔を合わせると、決まってこう語りあったという。

「ホン」とはもちろん、「本物」のこと。戦後の書道ブームにあって、当時の書壇の在り方に飽き足らず、「『書芸術』とは何か」「『本物の書』とはどういうものか」を模索する書家たちが集まり、昭和59年9月28日に、「産経国際書会」は誕生した。

設立に先立ち同年4月13日から5月1日まで、新宿副都心の高層ビルギャラリーで「第1回サンケイ国際書展」を開催。会場は「新しい書」を求める人々の熱気であふれたという。

創設メンバーは、現代書の大家として知られた小川、國井両氏のほか、伝統書の十鳥霊石、林錦洞、山田松鶴各氏ら多士済々。基本理念として「3C」（Clean＝清潔、Clear＝明朗、Creative＝創造。のちにCharacter＝品格を加え「4C」に）を掲げ、公開審査を行う（7回展まで）など画期的な試みで書道界に新風をもたらした。

以来35年。「産経国際書展」は、実力本位の書家の発表の場として発展。毎年7月、東京・上野の東京都美術館で行われる東京展をはじめ、仙台、名古屋、大阪、広島で各地方展を開催するほか、1月には国立新美術館で新春展を開催している。出品作は、伝統的な漢字、かな書から、篆刻、少字書、近代詩文、墨象まで多岐にわたり、最も自由で創造性豊かな書道展として認知されている。平成元年に始まった「産経ジュニア書道コンクール」も今年30回を迎え、全国から約1万点の作品を集め、書道振興に貢献している。

「産経国際書会」の大きな特色が、国際交流への取り組みだ。平成2年のインドネシアを皮切りに、チェコ、米国、中国、韓国、台湾などで海外交流展を開催。平成5年からは、ワシントン、シカゴ、ロサンゼルスなどを回る5年間の全米巡回展も行った。第22回展からは、国際交流への貢献を評価する「高円宮賞」が設けられ、高円宮妃久子殿下から贈賞式で毎年ご下賜いただいている。

世界に通じる芸術としての「書」の創造と、書芸術を通じた国際交流。二本柱のもと、産経国際書会は次の時代も前進を続けていく。

第35回記念 産経国際書展 贈賞式
産経新聞社

高円宮妃殿下をお迎えしての贈賞式＝明治記念館

各国大使も出席した祝賀会は約500人が出席して盛大に行われた

初代理事長
故林錦洞氏

第2代理事長
田中鳳柳氏
（現最高顧問）

第3代理事長
齋藤香坡氏
（現最高顧問）

第4代理事長
伊藤欣石氏
（現副会長）

各国大使らが揮毫

「第35回記念産経国際書展」（7月27日～8月3日、東京都美術館）では、国際書展の名にふさわしく、特別企画として「書で結ぶ世界と日本『愛』と『友』」展を開催。日本に駐在する世界各国の大使、外交官の方々を書会所属書家が指導、毛筆と和紙を使って、「愛」または「友」を意味するそれぞれの国の言葉を揮毫した作品を展示した。米国、英国、ドイツ、フランス、ロシアほか16カ国が参加。インドネシアのアリフィン・タスリフ大使が会場を観覧したほか、多数の大使が祝賀会に出席、交流を深めた。この企画は2020年東京五輪に向け、来年の第36回展でも開催する予定だ。

米国のハガティ駐日大使（左）も一家で作品を出品

高円宮賞歴代受賞者

回	受賞者
22	佐々木月花
23	米国書道研究会
24	本多　道子
25	田中　蘆雪
26	手島　泰六
27	平方　峰壽
28	石川　天瓦
29	竹澤　玉鈴
30	山下　海堂
31	岩田　正直
32	伊藤　欣石
33	多田　游硯
34	風岡　五城
35	坂本　香心

内閣総理大臣賞歴代受賞者

回	受賞者
17	小川　瓦木
18	國井　誠海
19	山田　松鶴
20	林　錦洞
21	佐野　丹丘
22	三宅　剣龍
23	田中　鳳柳
24	村越　龍川
25	齋藤　香坡
26	勝田　景泉
27	吉田　玉雲
28	佐藤　志雲
29	宮澤　静峰
30	島村　谿堂
31	今口　鷺外
32	加藤　深流
33	原田　圭泉
34	青陽　如雲
35	岩間　清泉

◆産経国際書会35年の歩み◆

年	出来事
昭和59年	•第1回サンケイ国際書展（新宿・朝日生命ギャラリー） •サンケイ国際書会設立総会。初代会長に北川貞二郎氏
60年	•第2回展を池袋・サンシャインシティで開催
61年	•初代理事長に林錦洞氏
62年	•中国青年聯合会主催第1回日本週間交流書法展（杭州市）
63年	•新聞社の題字変更に合わせ、産経国際書会に名称変更
平成元年	•第1回全国書き初め展を大宮市で開催（現ジュニア展）
2年	•インドネシア共和国独立宣言45周年記念ジャカルタ展
3年	•産経国際書会プラハ展（チェコスロバキア共和国）
4年	•第9回展を高円宮憲仁殿下がご高覧、贈賞式にご臨席
5年	•産経国際書会ワシントン展（以降5年間、米国を巡回） •第10回記念展の出品数が1万点を突破
7年	•阪神大震災で被災者の出品支援。関西展は中止 •日中韓代表作家書法展を第12回展東京展と併催 •田中鳳柳氏が第2代理事長に就任
8年	•日中韓代表作家書法展・産経国際書会代表展（ソウル） •伊勢神宮内宮御鎮座2000年奉祝記念「伊勢の書展」
9年	•日中韓代表作家書法展・産経国際書会代表展（北京）
10年	•第15回記念展東京展で「産経七人展」「赤羽雲庭展」
12年	•第17回展から内閣総理大臣賞を創設 •産経国際書会代表作家台湾展（台北）
13年	•齋藤香坡氏が第3代理事長に就任
14年	•第1回全日本代表書家作品展を中国上海市で開催
16年	•第21回展東京展で「世界の言葉で『ありがとう』」展 •第20回記念展特別企画「何紹基展」
17年	•第22回展から高円宮賞をご下賜される •第1回特別色紙展（高円宮妃殿下よりお題下賜）＝30年まで10回開催
19年	•産経国際書会研修館設立（群馬県甘楽町） •第24回展から会場を東京都美術館に移す（※）
20年	•新春展を国立新美術館で開催 •第25回記念展で「女流代表展」「25年の歩み展」
22年	•伊藤欣石氏が第4代理事長に就任
23年	•東日本大震災で、被災者の災害見舞、優遇措置
25年	•第30回記念展に合わせ「書家たちの宝もの展」（上野の森）
27年	•風岡五城氏が第5代理事長に就任
29年	•第34回展東京展から産経ジュニア書道コンクール併催
30年	•第35回記念展、「日本台湾交流書道展」（台北）

※東京都美術館改装中の平成22、23年は池袋サンシャインシティで開催

産経国際書展2019年の日程

展覧会	会場	会期
第35回新春展	国立新美術館	1月23日(水)～2月4日(月)
第36回産経国際書展	東京都美術館	7月27日(土)～8月3日(土)
2019産経ジュニア書道コンクール	東京都美術館	7月27日(土)～8月3日(土)
第36回東北展	せんだいメディアテークギャラリー	8月30日(金)～9月4日(水)
第36回瀬戸内展	広島県立美術館	9月24日(火)～29日(日)
第36回中部展	愛知県美術館	11月12日(火)～17日(日)
第36回関西展	大阪市立美術館	11月26日(火)～12月1日(日)

【展覧会・出品の問い合わせ先】
産経国際書会事務局
〒100―8079　東京都千代田区大手町１―７―２
産経新聞社事業本部内
電話：03・3275・8902　FAX：03・3275・8974
http://sankei-shokai.jp/
https://facebook.com/sankeishokai

《企画・制作》産経国際書会

産経国際書会35周年「日本台湾交流書道展」盛大に開く

書技の一層の向上と、書芸術の国際交流を通じた世界各国との友好親善、世界平和への貢献を目的に昭和59（1984）年に設立された「産経国際書会」（会長＝飯塚浩彦産経新聞社代表取締役社長）が今年35周年を迎えた。7月に東京都美術館で「第35回記念産経国際書展」を盛大に開催したほか、10月27日から11月4日まで、台湾・台北市の国父紀念館で「2018日本台湾交流書道展」を開催。開幕式・祝賀会には日本を代表する書家、ジュニア書家ら134名が訪台して出席し、日本書道の実力を示すとともに、台湾書家と実りある交流の時を過ごした。伝統的な漢字書から、かな、篆刻、少字数書、さらには近代詩文、墨象と呼ばれる現代書まで、バラエティー豊かで創造性に富んだ作家が揃い、無限の美を通じて国際友好に貢献していくのが「産経国際書会」の魅力。「平成」の次の、さらなる10年、20年に向け、ますます進化していく。

2018臺灣日本交流書道展
開幕典禮

「2018日本台湾交流書道展」開幕式でテープカットを行う飯塚浩彦「産経国際書会」会長（中央）と風岡五城理事長（その右）。飯塚会長の左は呉釗燮・外交部長

まさに秋天一碧。雲一つない空の青さが、日本と台湾の書道交流を祝福した。

「2018日本台湾交流書道展」は、10月27日から11月4日までの9日間にわたって台北市の国父紀念館1階の博愛芸廊と両側文化芸廊で開催された。

「産経国際書会」の台湾での海外交流展開催は平成12年以来18年ぶり。前回は166点を展示したが、今回はそれを大幅に上回る228点を出品。台湾側32点を加えた260点の堂々の展示となった。

日本からの訪台団は、飯塚会長を団長とし、開催委員長の風岡五城理事長をはじめ、田中鳳柳最高顧問、山下海堂名誉顧問、今口鷺外、宮﨑春華常任顧問、坂本香心理事長代行、今田篤洞、岩浅写心、金丸鬼山、髙木撫松、松井玲月、松﨑龍翠、村田白葉の各副理事長ら134名が日本各地から参加。生田博子名誉顧問ら米国書道研究会の社中は、米国から日本経由で駆けつけた。

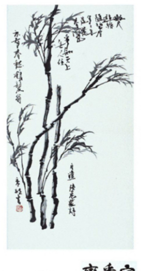
台湾の要人を招いての開幕式は展覧会2日目の10月28日、紀念館講堂で日本、台湾の168名が参加して開催。呉釗燮・外交部長、蕭宗煌・文化部次長らの台湾側来賓と日本側来賓の沼田幹夫・日本台湾交流協会台北事務所代表が出席。飯塚会長と呉外交部長らによる記念品の交換、テープカットと進み、盛大に開催を祝った。

飯塚会長（右）は記念品交換で、田中最高顧問の書を呉外交部長にプレゼント

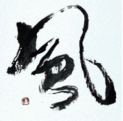
挨拶に立った飯塚会長は、冒頭、「大家好（ダージャーハオ、ダーゲーハオ＝皆様こんにちは）」と中国語で挨拶。台湾側の歓待に感謝を述べるとともに、「今日の日本の書の息吹を感じてほしい」と書道交流の意義を強調した。台湾側の共催団体「中華民国書学会」の張炳煌会長は、「今回はジュニアの交流まで行われたことに価値がある。末永く交流を続けたい」と歓迎の挨拶を述べた。

会場は、巨大な孫文像とその前で行われる衛兵交代式で有名な観光名所。台北市民の憩いの場でもある。今回は通常、常設展示に使用されるガラスケースまで特別開放して、最高顧問を始めとする日本、台湾の幹部作家の作品を展示する大規模展。初日から大勢の地元の書道ファンが訪れ、日本独自の発展をとげた漢字、かな作品、一字書や近代詩文、墨象作品を食い入るようにみつめた。

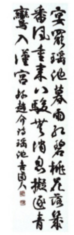
開幕式のあと、日本側参加者は、台湾書家と一緒に会場を観覧。作品の前での記念撮影をしたり、手振り、身振りを交えて意見交換したりと、楽しい交流のひと時となった。



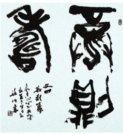
最高顧問　齋藤香坡



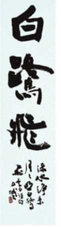
最高顧問　佐々木月花



最高顧問　田中鳳柳



最高顧問　村越龍川



理事長　風岡五城

◆風岡五城開催委員長の話

「日本台湾交流書道展を無事開催できたことは大いなる喜びです。出品者、また訪台団にご参加いただいた会員の皆様のおかげと心より感謝いたします。これを機に、国際の名にふさわしい書を通じた友好親善の絆をさらに深められるよう今後も努力していきたいと思います」

◆勝田晃拓実行委員長の話

「展覧会はもとより、130人もの訪台に事故もなく、思い出多き、貴重な経験をさせて頂きました。ご協力いただいた台湾の皆様、出品者、参加者、関係各位のご支援、ご指導に感謝いたします」

展覧会場の国父紀念館

円山大飯店の食事に舌鼓

故宮博物院の名品に感激

台北の名刹・龍山寺を観光

開幕式後、日本と台湾の出席者全員で記念撮影

至福の時間

公式訪台団は開幕式の翌29日に、早朝から故宮博物院を訪問。書にまつわる2大特別展が開催されており、書聖・王羲之の「平安何如奉橘三帖」や、趙孟頫「鵲華秋色」、蘇軾、米芾らの書の鑑賞、「翠玉白菜」「毛公鼎」といった名品の鑑賞に時を忘れて見入った。ツアーには台湾最大の陶磁器の街、鶯歌などの見学も含まれ、豪華な台湾・中華料理とともに参加者には至福の時間となった。

2018台湾日本ジュニア交流記念
夢
Dream
福縁
挑戦

初のジュニア交流

「2018日本台湾交流書道展」では、付随行事として初めて日本台湾のジュニアによる書道交流行事が行われた。日本からは、教育部担当の髙橋照弘副理事長を団長に、眞田朱燕常務理事を副団長に、「2018産経ジュニア書道コンクール」の上位入賞者7名（小学生1・中学生1・高校生6）と松山大学書道部の大学生2名が参加。台北に到着した10月27日の夕方開催という強行軍だったが、張炳煌会長が教授を務める台湾屈指の名門私立・淡江大学の淡水キャンパスを会場に、張教授の特別授業を受講、さらに書道で優秀な成績を収めている台湾学生7名と揮毫交換などの交流を行った。最後は、2×5㍍の巨大な紙に、日台参加者全員で揮毫。この寄せ書きは翌日の祝賀会で全員が登壇して披露され＝写真上、会場から大喝采を浴びた。

田中鳳柳最高顧問

山下海堂名誉顧問

生田博子名誉顧問

今口鷺外常任顧問

風岡五城理事長

坂本香心理事長代行

祝賀会で交流揮毫会

開幕式のあと、台北市内の大三元酒楼で行われた祝賀会では、同展実行委員長を務めた勝田晃拓副理事長の司会進行で、日本台湾を代表する書家12名による交流揮毫会が行われた。冒頭、台湾側の強い勧めで、飯塚会長が人生初めての揮毫に挑戦。「日台友好」と書き、会場は和やかな雰囲気に包まれた。日本側は、田中最高顧問、山下、生田名誉顧問、今口常任顧問、風岡理事長、坂本香心理事長代行の順で揮毫。台湾側は蕭文化部次長や出品書家ら6名が揮毫した。

揮毫終了後は、日本と台湾の出席者170名が楽しい祝宴。「乾杯（カンペイ）」の繰り返しで、美味しいお酒と、ミシュランの一つ星に輝いた料理を堪能した。

「2018日本台湾交流書道展」
◆会期　2018年10月27日(土)～11月４日(日)
◆会場　「国立国父紀念館」（台北）
◆主催　「産経国際書会」「産経新聞社」「中華民国書学会」「国立国父紀念館」
◆後援　「日本台湾交流協会」
◆実行委員会
開催委員長：風岡五城（理事長）
実行委員長：勝田晃拓（副理事長）
実行委員：小川艸岑、山本晴城（常務理事）
アドバイザー：坂本香心（理事長代行）、高橋照弘（副理事長）

新春展で台湾作家作品32点展示

「2018日本台湾交流書道展」に出品された台湾側の作品32点は、1月23日(水)から2月4日(月)まで、東京・六本木の国立新美術館で開催される「第35回記念産経国際書展新春展」で特別展示される。張炳煌会長のほか、台湾の高僧として知られる釋廣元氏、現代書家、陳世憲氏ら台湾を代表する書家が名を連ねており、必見だ。

國藝書道院
最高顧問　齋藤香坡
理事長代行　坂本香心
常務理事　澤田香墨

臨泉会
会長　佐々木月花
会長代行　原田圭泉
理事長　松井玲月
八戸臨泉会理事長　大橋玉樹

産経国際書会
最高顧問　田中鳳柳
副理事長　金丸鬼山
専管理事　小林紫雲

日本書芸心龍会
最高顧問　村越龍川
副理事長　村田白葉
常務理事　渡邉祥華

東西書芸会
会長　伊藤欣石
副会長　角谷欣壽
事務局長　安蒜欣青

宏道書会
名誉会長　風岡五城
会長　山本晴城
理事長　木村大澤

一煌会
会長　石川天瓦

2019年
第35回記念
産経国際書展

米国書道研究会
名誉顧問　生田博子
理事　加柴律子
理事　ラモス逸子

抱雲会
名誉代表　手島泰六
代表　髙橋照弘
副代表　岡野蒼生

産経国際書会
名誉顧問　平方峰壽

書道研究峰墨会
会長　平方峰壽

海游舎
会長　山下海堂
会長代行　髙木撫松
副会長　青木錦舟

あしで會
会長　今口鷺外
副会長　中村雪鷺
理事長　倉知夕鷺

書の世代の会
代表　青陽如雲
理事長　今井軒石
副理事長　武富明子

書成会
会長　田村政晴

桑文会
常任顧問　松本美娜

春風書道会
会長　宮﨑春華
渡邉正峰・平岡雄峰
田中呉峰・久保杉峰
加藤雅峰・藤田逸峰

書道聖筆会
顧問　小名雪王
常務理事　小名雪揺
監事　小名玉花

萩水書人社
会長　林清方
理事長　今田篤洞
最高顧問　三上錦水

誠心社
会長　渡邉麗

心芸墨美作家協会
理事長　岩浅写心

景雲社（東海書道会 書道研究部）
理事長　勝田晃拓
顧問　赤堀翠柳
常任総務　老川揺舟

大阪CMO文化学院・書融会
代表　正川子葉

煌心書道会
会長　松﨑龍翠

産経国際書会
副理事長　松﨑龍翠

書をならふ
主宰　浅香秀子

日本書法研究会
会長　江戸秀虹

墨林書道院
会長　遠藤乾翠

遊心書道会
会長　美之口琴晴
理事長　大庭清峰
副理事長　大段栄泉

新春展

輪の会
会長　小野亭良

書道秋桜会
会長　鎌田悠紀子

書道五月女紫映
主宰　五月女紫映

墨笙会
会長　眞田朱燕
常任理事　恩田峰道
常任理事　山住兆穂

東洋書芸院
会長　世木田江山

京都佳趣会
主宰　長尾佳風

書芸はるくさ
専管理事　青柳光草
理事　梅内春藍

書道研究「檀の会」
会長　北川佳邑

緑山書道会
専管理事　北野香春

千草書会
専管理事　近藤豊泉

日本綜合書作院
会長　篠原秀朋

方琥書院
主宰　久田方琥

蒲葵書院
主宰　赤池渓舟
佐藤不屈
倉持喜扇

竹藜会
主宰　加藤竹藜

清真会
副理事長　菅原有恒

美翠書院
竹内美翠

朋邑書道会
会長　吉本麗竹

啓心会
評議員　岩間桃香

明扇書藝會
主宰　長谷川明扇

書道研究 斯華会
会長　小野之右

東天書道会
会長　佐々木天道

梓書道会
主宰　市原蘇水

株式会社 鵞毛堂

協和貿易株式会社
代表取締役　渡邉雄太郎

ゴールデン文具株式会社
代表取締役社長　平出晴久

藤和額装株式会社
代表取締役社長　安藤敏行

株式会社ならや本舗
代表取締役　南多加夫

株式会社墨運堂
代表取締役社長　松井昭光

株式会社 牧野商会

株式会社リンクス
代表取締役　小泉薫

明治記念館

会期　平成31年1月23日(水)～2月4日(月)
午前10時～午後6時（最終日午後3時）
※入場は閉場の30分前まで　1月29日(火)休館
会場　国立新美術館　2B・2C・2D

産経国際書会
常任顧問　上野鶴陽

産経国際書会
顧問　白﨑菖汀

産経国際書会
顧問　森井翠鳳

産経国際書会
常務理事　石井長慶

産経国際書会
常務理事　泉芳秋

産経国際書会
常務理事　岡本杏華

産経国際書会
常務理事　小川艸岑

産経国際書会
常務理事　入見恵風

産経国際書会
常務理事　野﨑俊江

産経国際書会
理事　梶谷綾泉

竹翠会

墨晨社

書道研究 尚友会

書人クラブ

書峰書道会

学校法人
日本書道専門學校
理事長・校長　髙橋照弘
東京都品川区上大崎2－19－6
電話・03（3490）2722（代）